

J S C A 海外研修会報告

ニューヨーク最新建築事情視察

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第1班</td><td style="width: 10%;">日本発 8/12</td><td rowspan="4" style="border: none; vertical-align: top; padding-left: 10px;">ニューヨークの代表的高層建築群 巡り エンパイア・ステート・ビル→国連 ビル→ロックフェラー・センター→ リンカーン・センター→タイムズ・ スクエア</td></tr> <tr> <td>ニューヨーク着</td><td>8/12</td></tr> <tr> <td>自由研修</td><td>8/13</td></tr> <tr> <td></td><td>8/14</td></tr> </table>	第1班	日本発 8/12	ニューヨークの代表的高層建築群 巡り エンパイア・ステート・ビル→国連 ビル→ロックフェラー・センター→ リンカーン・センター→タイムズ・ スクエア	ニューヨーク着	8/12	自由研修	8/13		8/14	<p>日本発 第2班</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">建築視察</td><td style="width: 10%;">再開発・建築コース 今話題の新鮮建築群 ハーレム→サウス・ストリート・シ ーポート→フルトン・マーケット→ 新コンベンション・センター→ 貿易センタービル</td><td style="width: 10%;">8/15</td></tr> <tr> <td></td><td>8/16</td><td></td></tr> <tr> <td>帰国</td><td>8/17</td><td>新築現場視察 *シヴィロッドアソシエイツ (構造事務所の訪問)</td></tr> <tr> <td>日本着</td><td>8/18</td><td>森田団長による構造評論</td></tr> <tr> <td></td><td>8/19</td><td>自由研修</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>帰国</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>日本着</td></tr> </table>	建築視察	再開発・建築コース 今話題の新鮮建築群 ハーレム→サウス・ストリート・シ ーポート→フルトン・マーケット→ 新コンベンション・センター→ 貿易センタービル	8/15		8/16		帰国	8/17	新築現場視察 *シヴィロッドアソシエイツ (構造事務所の訪問)	日本着	8/18	森田団長による構造評論		8/19	自由研修			帰国			日本着
第1班	日本発 8/12	ニューヨークの代表的高層建築群 巡り エンパイア・ステート・ビル→国連 ビル→ロックフェラー・センター→ リンカーン・センター→タイムズ・ スクエア																														
ニューヨーク着	8/12																															
自由研修	8/13																															
	8/14																															
建築視察	再開発・建築コース 今話題の新鮮建築群 ハーレム→サウス・ストリート・シ ーポート→フルトン・マーケット→ 新コンベンション・センター→ 貿易センタービル	8/15																														
	8/16																															
帰国	8/17	新築現場視察 *シヴィロッドアソシエイツ (構造事務所の訪問)																														
日本着	8/18	森田団長による構造評論																														
	8/19	自由研修																														
		帰国																														
		日本着																														



建築体験のすすめ
京都大学 森田 司郎

世の中が豊かになり新聞・テレビ・雑誌をはじめとして、様々なマス・メディアが多種多様の文化・芸術・技術についての情報を発信している。これらの情報の洪水中には、極めて高度のものも多く含まれているので、ちょっと焦点を絞れば、今までにない新しい感覚からものも多かる。いや、通のようないい顔ができると言う方が正確かもしれない。

建築についても御多聞にもれない。多くの素人衆が建築について実に良く知っている世の中になって来た。多分、それは絵画や彫刻や、場合によってはファッションと同列の感覚からのものも多かる。(私が久徳敏治氏と大学の同級と言っても不思議はないが、黒川紀章氏と同級となると大いに不思議がられる世の中になって来た。)

情報伝達手段が高級化して来ると、居ながら映像によって大概の芸術・技術は凡そ理解することができそうである。美術印刷の忠実度はすばらしいし、宇宙の構造を解説するテレビ映画は事実と謎の

境界を正しく知ってくれる。建築についても、マスメディアは多くの優れた知識を与えてくれる。

しかし、建築物は他の対象と非常に異質であると思われる。その中に人が入って、またはその空間で様々な生活をする空間の正しい認識は、所詮2次元でしかない映像では不可能なのである。趣味としての理解は映像に頼れても、スペシャリストとしての理解は、建築空間を体験しないでは得られない。殊に建築構造技術者には、アーキテクトの描く建築空間の演出を良く理解する能力が不可欠だし、その上に安全性の観点から、アーキテクトの意図を制約する決断力が望まれるのである。このような能力は、構造計算の訓練のみでは得られない。大いに実際の建築空間を体験して感動し、落胆するのが良策である。教育的体験はつまらない建築では得られない。古今東西を通じて名建築と言われるものを見学するのがよい。

JSCA関西支部は今年8月中旬にニューヨーク新建築視察を企画し、小生が団長と言う美名をいただいて参加の皆さんのお手伝いをした。幹事役の保野博氏の周到な準備と参加者の熱意が相和し

て、マンハッタン5泊の研修は有意義であった。それには、マンハッタンと言う訪問地の魅力も大いに貢献している。

私にとっては3度目の訪問であったが、前2回が1、2泊の通過者だったのに較べて、今回は豊富な体験をした。現代建築の見本市のような中南部、居住地域が整然と維持されている東北部、再開発が進行中の西岸一体と、高度のそして過激な建築空間・都市空間を満喫することができた。具体的な報告は、他の参加者から行われるだろうから、私のうけた強烈な体験を一つ挙げることにする。

それは、メンテナンスの立派さである。1950年代の名建築であるシーグラムビルやレバーハウスが今直一級の気品と美しさを維持している様子に感動を覚えた。その実態を学ぶことはわが国の建築界にとっても重要な課題と思われた。

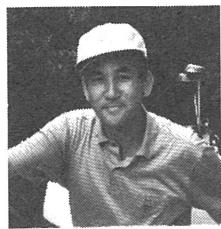
構造技術者がアーキテクトのパートナーとして、クライアントの信頼を得るスペシャリストとして職能を確立するためには、このような建築体験の機会が、特に若手技術者に継続的に与えられることを望むものである。

海外研修会、雑感

馬瀬

芳知（馬瀬構造設計）

研修会の目的であるニューヨークの建物の視察及び見学については、団長の森田先生をはじめ2、3の方がお書きになっておられますので、私は今回の旅行の雑感といった事を書かせて頂きます。



旅行の話がありました時、最初は参加しようか、どうしようか随分と迷いました。と言うのも私は旅先でよく眠れない性分でして、俗に言う枕が変わると寝られ無い、と言うやつです。それともう一つ生来胃腸が余り強くなく、これも旅先で食当たり、水当たりをして体調を崩す事がよくあるものですから、旅行の日程も3、4日が限度で、1週間は少し長過ぎる様に思ったからです。ところが私の娘が言うに「おじいちゃん（孫が3人います）も年だから行ける時に言っておかないと、行きたくても行けなくなるよ」と言われ、なるほどなと、へんな納得をして無理を承知で参加する事にしました。

さて、出発に際して研修旅行の説明会なるものが旅行社がありました。その中で特に強調された事は、ニューヨークは非常に治安の悪い所で、空港は勿論の事ホテルのロビー、フロントでも置き引

き、ひったくりに注意し、フリータイムの時は単独行動は危ないので複数で行動して下さい、街中ではケチャップマン、ボトルマン（スリ、ひったくり、かっぽらい、いいがかり、等のたぐい）に気を付け、夜は出来るだけ外出しない様に（夜行性の私には辛い事でした）、貴重品はホテルのセフティーボックスに預けて、現金を沢山持ち歩かない事、ホテルの部屋ではダブルロックをしチェーンも必ず掛けおくように、等々随分と脅されました。

期待と不安を抱えつつニューヨークに無事到着しヒルトンホテルに旅装を解いた、以後滞在期間中ニューヨーク市内を何度も観光しました。それは専用バスであったり、徒歩であったりして、国連本部、エムパイスステートビル、世界貿易センター、ロックフェラーセンター、コンベンションセンター、メトロポリタン、グッゲンハイム両美術館など有名な建物から名も知らない建物に至るまで、数多くの建物を見学しました。又違った角度からハドソン川、イースト川を巡りながら水上からクルーズでマッハッタンを眺める事も出来ました。自由の女神を横目で見ながら、ジョージワシントン橋、ブルックリン橋、その他名前は判らないが、マンハッタンによくマッチした、いい橋が沢山架かっていて、その景観はすばらしいものでした。ニューヨー

クについてある程度の予備知識は有ったものの、実際に来てみて、そのスケールの大きさに圧倒され大変迫力を感じました。経済、軍事の両面で、大国として多年にわたり世界のリーダとして君臨して来たアメリカ、その象徴とも言うべき世界一の大都会ニューヨーク、東京、大阪が小さく見えました。

ただ過去の栄光とは裏腹に、現状は多額の赤字を抱えた国家、病めるアメリカはニューヨークと例外ではないようです。治安の悪さに加え街はゴミが散乱し、道路は痛みがひどく、行き交う車はがたがたのオンドロがが多く、イエロー・キヤブ（タクシー）も同様で、しかもクーラーも無く車内も汚く、運転手の殆どが有色人種で、労働条件が良くないのか身なりもひどい、日本のタクシーと大変な違いだ。又朝早くから街角に黒人のコピ一時計の売人が数多く立ち「にせもの時計いらんか」と、しつこく声を掛けてくる。黄昏迫る頃ともなるとホテルの前までpanpan・girlが「コンパンワ」と日本語で誘ってくる。ハーレムには旅行者は勿論警察ですら徒歩では危なくて入れないと言う。「アメリカさんようどうした、強く豊かなアメリカに早くカンバッカしろ」と言いたい。まだまだ書きたい事が一杯有りますが、このへんで終りにします。幹事の方々そして団長の森田先生をはじめ参加者の皆さんに大変お世話になり、御陰で楽しい旅行が出来ました、参加してよかったです。

ニューヨークのアールデコ建築

川村 佳則（河村建築構造）

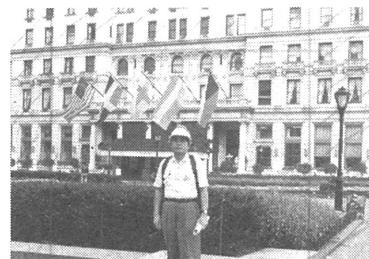
17年ぶりに訪れたニューヨーク視察旅行も最後の夜を向えている。私は、私は大きすぎるバスタブで、疲れきった体を思いきり伸ばしている。

「今日も、よく歩き廻った……！」。万歩計は3万8千を数えていた。ゴルフではせいぜい2ラウンドの距離であるが、芝生の上と違い凸凹のアスファル道を、車にも気遣いし、終始首を上に向かながら見学していたせいか、余計なところの筋肉がやたら硬直している。

エンパイアより見渡すニューヨークの街は、モダニズム・ポストモダニズムな建物が建ち並ぶ。その中に違った輝きを放つ建物が目につく。優雅で女性的なクライスラービルを始めとするアールデコ

時代の建物が、微笑んでいるかのようにニューヨークのスカイラインを魅力的に構成している。

アールデコ・スカイスクリーパーの特徴は、上層階に向うにつれて段状にセットバックをしていることである。これは1916年施行のゾーニング法（斜線規制）と1922年シカゴ・トリビューンのコンペ



に2等入選したサーリネン案の影響であると思われる。優れたバランスでセットバックをするサーリネン案を抑えて、この時当選したフッドがアメリカン・ラジエイタービルをアールデコ建築最初の実例とするが、その形態はサーリネン案にヒントを得ているところが興味深く感じられる。

幾何学的な文様を、豊富な材質と色彩で楽しく表現をするアールデコは、ギリシャ・エジプト・マヤ・アステカ文明を思わせる。オフィスビル、映画館、放送局、新聞社、ホテルなどの施設に見られるアールデコは、プランやファサードがシンメトリックなものが多い。これは機能性よりもむしろ見る側に立っての配慮と考えられる。エントランスホールやロビーのインテリアは複雑な装飾を大胆

に、ドラマチックに表現をしている。カラフルなモザイクタイルの壁、プラスチックの型押し天井、彫刻的なエレベーターの扉、照明器具、レターボックス、ビルの案内板、階段の手摺からラジエイターのグリルに至るまで楽しませてくれる。着色テラコッタや色相の微妙に違う煉瓦の外壁は織物かと錯覚をさせる。さらに巨大化する建物は、近くから全貌がつかみにくいため、そのミニチュアなどをロ

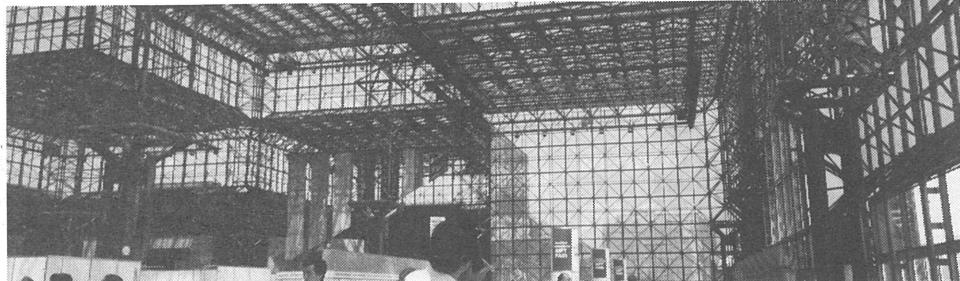
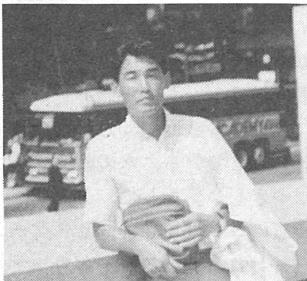
ビーに飾ることによって、建物自身の姿を認識させようとしている。

第一次大戦後アメリカの経済は大きく発展をした。建物はより高く、世界一を競い合っている時、突如として開花したのがこのアールデコである。繁栄と消費の中でこの様式が大衆に受け入れられたのは、彼等の自由と楽天的な民族性からかも知れない。1929年の大恐慌を界にして、この不思議な魅力を持つアールデコ

時代は終り、ミースやSOMのモダニズムへと写る。アールデコ最後の記念碑となるロックフェラーの建築群もフッドの計画であることが何か因縁深く面白い。そしてその玄関正面のレリーフに刻まれた、『知恵と知識は時代の原動力である』と言う言葉を見つけた私は、この言葉がこの旅のすべての疲れを癒してくれそうに思えてきた。

摩天楼でないN.Y.

近藤 一雄（東畠建築事務所）



建築には色々なタイプが有りますが大別すれば2つに分けられると思います。一つは空間を上に重ねる重層タイプ、いま一つは、空間を横に広げる屋根構造タイプです。ニューアーク空港へ着陸直前の飛行機の窓越しにワールドトレードセンターが目に入って来た時には、いよいよ摩天楼のN.Y.へ来たぞと感激し、よし色々見て歩きまわってやろうと興奮しましたが、空港→ホテルへのバスの中より見上げる高層建築群の中に見え隠れする高層建物、フリータイム、視察時に歩きまわり訪づれた高層建物と、重層タイプの建物に多少食傷気味であり、高さへの感激がマヒし、各建物に付随しているアトリウム空間にも物足りなさを感じ、セントラルパークの偉大さを痛感した時に、I.M.Pei 設計によるJacob k Javits Convention Center of N.Y. を視察しました。

N.Y.と言えば摩天楼と言う一般的な認識しか持ち合わせなかった勉強不足の身にとっては、総ガラス張の巨大な横への空間を体験した事は非常な驚きであり、横への空間は縦への空間より素晴らしいという認識を再確認しました。このセンターの第一の特徴は何と言っても規模の巨大さです。敷地は89,000m²、建築面積は約200m×300mで延べ面積は約17万m²と膨張メッセの約1.7倍にも及びま

す。

第2の特徴は、この巨大空間を、屋根、外壁に張りめぐらせた反射ガラスで包み込んだ事です。

この外壁は凝ったディテールを一切排除しシンプルに徹しており、建物に近づいてもほとんど表情を変えることもありません。しかし、エントランスをぐるりグレートホールに一歩足を踏み入れると、外からは想像もつかなかった、繊細なデザインされた立体トラス架構による総ガラス張りの吹き抜けの大空間が目にとび込んでしまします。56mの高さを持つここグレートホールは、一般にクリスタルパレスと呼ばれ、総ガラス張りのスペースフレームを劇的に演出しています。様々な形状を作れる柔軟性を持ち、技術的に信頼出来る立体トラス構造は、大空間を作る最も適した構法で、数多く作ら

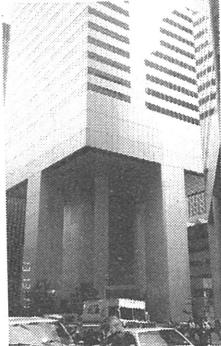
れていますが、これほどダイナミックでシンプルでレースの様に軽やかな美しさを持ち人間味を感じさせる空間は無いと思われます。「名建築は雨が漏る」の言葉通り、多いのか少ないのか60,000m²ものフラットな屋根から約70ヶ所雨漏が発生し、30ヶ所は補修出来たが残りは今でもトラスの下にキャンバスを張り雨を受けています。ヌループルのピラミッドと同様ガラス清掃に対する考慮が無く、86年の竣工以来一度も清掃が出来ず、現在ゴンドラ設置工事が行なわれていますと説明しながら案内して下さったN.Y.市女性職員の態度、言葉の端々に、それでもこの建物は素晴らしいでしょうと言う誇りが感ぜられました。この様に使用者に愛される空間を作りたいものだと思います。



参加者記念撮影

ニューヨーク現代建築雑感 八木 貞樹（大林組）

ニューヨークは高層建物のショーウィンドウである。時代の先端デザインで身を装った建物が渾然一体となり、街並を形成している。一時間も歩けば、ゴシック風教会、アール・デコ、モダン、ポストモダンの建物に次々と出会える。右脳が刺激される街である。数多くの見ておきたい建物を見たが、印象深い3つの建物について述べる。



シティ・コーポ・センター

傾斜屋根と大胆な足もとのシティ・コーポ・センター（1977年竣工）は、スワンクらの設計である。太陽熱利用を意図した傾斜屋根、ニューヨーク初の2階建エレベーター、TMDによる揺れの低減等、当時話題のハイテクビルである。風に対して、建物外周にV字の大型ブレースを配し、足もとは四辺の中央に4本の柱のみで抵抗している。中央コアは鉛直荷重のみを支えている。写真で見ても迫力があるが、実物にはただ驚くばかりである。外装はガラス面とアルミのスパンドレルを同一面に仕上げ、構造体の大型ブレースは外観からは見えない。これは構造体の温度応力の低減と、外装費の低減を意図している。構造体は表現されず、サラリと包み込まれている。解放された足もとのサンクン・ガーデンの階段に何人ものニューヨーカーが座り込んで、ハンバーガーをかじっていた。まさにアメリカ!!そして、建築計画的に大成功したこの建物の構造設計者William Le Messurier 氏に脱帽。

かの有名なティファニーの隣りのこれまた有名なトランプタワーについて。ギ



ザギザの美しいガラスカーテンウォールの建物が、RC造58階であるとは気がつかない。インセンティブ・ゾーニング制により、2,000%を越える容積率を有し、金色に輝くガレリアの屋根トラスと赤味の強い大理石の内部空間は、写真で見るよりも上品で美しい。構造的には剛なコアとラーメンからなり、上部高級アパートの柱を19階のトランスファーガーダーを介して下層で間引いている。風で決るために、自重が重く剛性の高いRC造はS造に比べ有利な面があると聞く。かの SOM のファズラー・カーンはシカゴの43階のアパートにRCチューブ構造を採用した理由の一つにこのことを挙げている。地震から開放された所ならではの発想か?。いづれにしても自由でおおらか。

アルゼンチン生れのシザ・ペリの作品であるワールド・ファイナンシャル・センター（WFCと記す）は密度の濃いデザインとウォーターフロントは立地にめぐまれ、私のお気に入りである。ミノル・ヤマサキのワールド・トレード・センターを徹底的に意識し、ハドソン川からのデザインスタディは繰返し行ったに違いない。同行したS氏は「WTCに媚びている」と表現した。彼の真意はつかみかねるが、私はWTCとのハーモニーを感じる。ペリは少くともヤマサキに敬意は表したであろう。高さで競う必要はない。構造的にもプランを見る限りセンターコアとラーメン構造の平凡な建物である。少なくとも、使い易いオフィスの

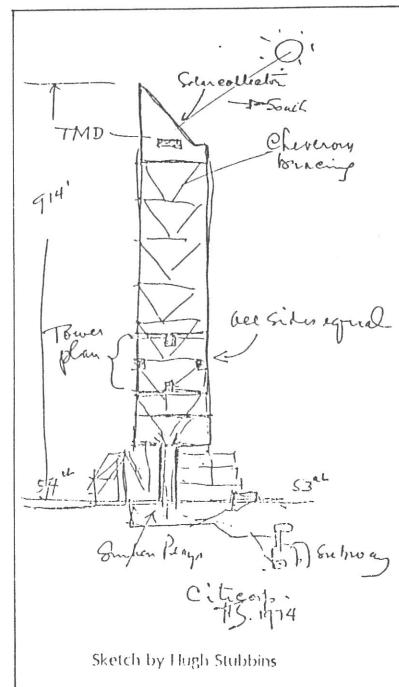


トランプタワー



W・F・C

プランには見えない。まさにスキンのデザインと外構デザインに多大な労力を費やしたと思われる。アール・デコを意識したデザインは、グラデーション技法のように、ガラス面の大きさを変化させ、各棟の屋根にピラミッド、円形ドーム等をのせて、5.46haの敷地に60万m²強の建物群を設計し尽している。水辺のデザインは人にやさしい。そして、グランドセントラル駅のコンコースと同じスケールをもつと言われるウィンター・ガーデンは重要な役割を担う。デザインはやゝ古めかしいのが新しい。この建物群を見る時、「構造屋は平凡でいい。全ては優秀な建築家が担う。」と言っているように見える。それでも、私はこの建物が好きだ。



Sketch by Hugh Stubbins

シヴィラッド・アソシエイツ構造事務所訪問記

田口 幸雄（松村組）

8月16日、森田団長以下11名で、ニューヨーク、マンハッタンのミッドタウンにあるシヴィラッド・アソシエイツ構造事務所（大林組による紹介）を訪ねた。

1928年に開設され、60年以上の歴史を持つ、アメリカでも有数の構造事務所で



シヴィラッド・アソシエイツ

事務所内部

ある。主な作品には、マディソン・スクエア・ガーデン、シーグラム・ビル、フォード・ファンデーション・ビル（以上ニューヨーク）、トロント・シティ・ホール、東京青山のA・I・U・ビル等があり、どちらかというと、ホール・競技場といったアーチとケーブルの組み合わせによる空間構造が多い。（一説によると、アメリカのケーブル構造物の1/3は、当事務所の設計によるといわれている）

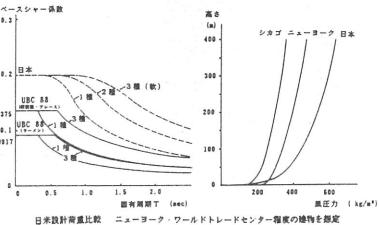
先ず事務所の簡単な紹介が行なわれたが、現在、50名程の所員で運営されており、構造計算、構造図面作製は全て事務所内で処理し、いわゆる外注は行なわれていないということであった。引き続いて、近年竣工した建物、現在施工中あるいは設計進行中の建物物件（鉄骨造長スパン構造、スーパー・フレーム構造、コンクリート・コアを含む鉄骨造フレーム構造等）について、設計図面を広げながら、構造設計概要や部材の納まり詳細の説明が、ジョン・クライアン、クーマー・シャー両氏によりなされた。主な内容を列記すれば、

1. アメリカにおいて建てられている超高層ビルの主体構造は、H鋼の柱・梁



・プレースを骨組みとする鉄骨造が多い。60階建てまでが通常のラーメン構造の限度で、それ以上の高さになると、構造面・コスト面からもチューブ構造等の構法が採用されている様である。

2. ニューヨークやシカゴでは地震がないため、水平力は風荷重により決まる。建物のベースシェア係数は日本の設計地震力と比較すると非常に小さい。（図-1参照）



ニューヨーク雑感 中部支部 遠藤 茂之（鹿島建設）

関西支部よりツアーの参加募集があった時、当支部としても海外視察を検討していた折でもあり、個人的にも初めてのニューヨークだったので早速参加することとした。極度に治安が悪化していると聞き、期待と不安の錯綜した複雑な気持ちで出発した。

ニューヨークの第一印象はリンカーントンネルよりマンハッタン島に入ったため、倦怠と退廃に満ち、抱いていたイメージとはかけ離れたものであった。それはホテルに着いてからも変わらなかったが、日が経つにつれ、全く認識を新たにした。

ホテル・レストラン・街路で、いろいろな国人の人達がごく自然に食事をし、語り合い、散策している。ニューヨークはまさに人種のるっぽ。

ユーモラスに蒸気を噴き出しているガタガタの道路。勇気を出さないと一人では乗れないイエローキャブ。ヘビー級のボクサーの様な精悍な体付きの黒人。肥満の為に体全体が三角形になってしまった白人。スクランプ・アンド・ビルトでリフレッシュされたポストモダーンとアールデコの混在。限られた土地ゆえ上へ上へと伸びる摩天楼と広大な緑のセントラルパーク。早朝の公園内のジョッカートとホームレス。公園北側のハーレムと東側の超高級マンション。五番街周辺の勝者と活気と敗者の倦怠……。

ニューヨーク、そこはサクセスを夢見てやって来た人達の集合体であり、成功した者と夢破れ挫折した者との混合体である。何人も受け入れる寛容さと能力ある者しか生残れない厳しさ、それゆえニューヨークはエキサイティングでありエネルギーだと思う。

構造事務所を訪問し、テンション膜構造家で有名なバーガー氏に会えたのは非常にラッキーだったと思う。一つ一つの作品を誇らしく気に又楽しそうに説明されていた。美的センスと柔軟な思考を兼ね備えた方だという印象を強く受けた。特にサンディエゴのコンベンションセンターのテンション膜構造の屋根はすばらし

かった。妻側が解放されている為に長手方向に鉄筋のボックス梁をコンプレッションビームとして設け自己完結形として処理したアイデアはさすがと感銘した。

ツアーから帰って知ったことだが、



ワールド・トレードセンターには1974年に風搖れを防ぐ為に、トラス梁の下弦材端部に粘弹性ダンパーが総数10,000個程設置されている。又、森田先生の説明にもあった様に、シティーコープセンターには1978年、373トンのコンクリートマス（質量比2%）が33階に設置されている。水平両方向に滑動可能にし、減衰を4%に増大させ風搖れ防止をはかっている。いづれの制震装置も10数年前に設置されているのを知り、改めて彼らのオリジナリティーに感心した。

6日間、地上から、船上から、ヘリコプターから建物を見てまわった。

船上とヘリコプターから見たエンパイアースレンダーなプロポーションだけに凛々しく、地上から見たクライスラーはトップデザインが華麗で両者は時代を超えた美しさをそなえ、他の摩天楼とは別格に思えた。

ケビンローチェのハットン本社ビルとフィリップジョンソンの俗称リップスティックビルの1階ロビーは前者がイスラムのメスキータ風の列柱とガウディー風の柱脚、後者は花崗岩のバーナー仕上と磨き仕上の対比によりいづれもヒューマンな暖かさを感じた。

ワールド・トレードセンターはただひたすら高く、周辺プラザも無味乾燥であった。一方、ワールド・ファイナンシャルセンターは見る角度により程よく外観が様々に変化し、周辺プラザは程よく高低差をとり、広さもヒューマンスケールであった。アトリウムも全体に良く調和し、親しみのもてる空間であった。

時間の関係で、外観しか見ることができなかったが、グッケンハイム美術館の荒廃はひどく無残な姿であった。それに比べ、ホイットニー美術館は保守管理がゆきとどき風格すら感じた。

セントラルパークの広大な緑、何故このような広大な公園を狭いマンハッタン島につくったか。防災、憩い……？

建築を見るだけでなく、キャツ観劇、大リーグ観戦、ナイトクルージング等いづれも最高のものに接することが出来た。今回のツアーはほとんど男性であったが、次に行く機会があったら是非女房殿と思ったのは私だけではないと思う……。

夜の治安の悪さ、エイズへの警戒心ゆえ、同行の殿方は実に品行方正で何事も無く、帰国の途につけたのはメデタシ、メデタシ。

中部支部より参加させていただき、色々御迷惑をおかけしましたが有意義で楽しい旅をすることが出来深く感謝する次第です。今後、両支部の交流が益々深まる事を願っています。

支部の動き

- 10/25 支部役員会
- 6/5、8/27、10/1、10/30 広報委員会
- 9/27 技術委員会
- 9/21 海外研修会報告会
- 11/7 在阪建築9団体会長午餐会
- 技術委員会分科会
耐震設計 9/12、11/13
P C 5/10、7/9、11/8
構造計画 4/10、6/12、9/11、
10/16、11/16
- 囲碁同好会 11/10
- ゴルフ親睦会 11/27 於伏尾G.C
- 協賛事業（建築学会近畿支部）

シンポジウム

- 「観測地震動記録と構造物の安全性」
10/18 於大阪市立大学文化交流センター
- シンポジウム
「震度6、その時どうなる」
12/5 於建設交流館

1990年 技術委員会分科会活動報告

PC分科会

松谷 輝雄

最近の建築物の多様化、大空間化に対して、PC・PRC構造は、構造設計者のボキャブラリーの一つとなったと言えます。又、これらのプレキャスト化の時代にはプレストレスは欠かせません。当分科会は新しくできた工業化構法分科会と合同で、PC、PRC、高強度コンクリート、プレキャスト構法等についての研究会を開いています。又、61年の定例研究会の資料の出版化作業も行なっています。現在13名の委員で奇数月の第3金曜日に開催していますので、気軽に御参加下さい。

コンピューター部会

辻 英一

青柳前主査の方針を継承して昨年からは各社を歴訪するスタイルで「懇談」を続けている。

1月「安井建築設計事務所」、3月「長谷工コーポレーション」、5月「奥村組」、7月「日建設計」、9月「横河橋梁」、12月は関東部会の代表に来てもらっての交流を予定している。

内容は各社利用状況の見学・トピックスの紹介・個別の利用事情などについての意見交換などである。本部会が予定どおりの隔月で休みなく続いているのは、お互いに役立つ情報が得られているからだろう。当分の間この方針ですすめる予定である。

鉄骨分科会

内田 直樹

(株)溶接協会と建築鉄骨のロボット溶接化について、数年来各種の技術交流を継続している。平成2年度の支部総会後のパネルディスカッションで、その成果をもとに会員と意見交換を行った。信州大学の中込教授やロボットメーカーの技術者の参画を得て、活発な討議が行なわれた。また、限界状態設計法についても、建築学会の講習会が行なわれた後、実務設計者としての意見を将来まとめるべく勉強会をもった。さらに近年官民共同で取り組んでいるプロジェクトの内、高性能高張力鋼やステンレス鋼等をテーマにとり上げて現状の報告会を行った。今年度は、当分科会をのメンバーを希望する

会員が30名近くに増加したため、運営方法に関しては比較的小人種で、勉強会や成果の報告は会員で行う等、分科会のもち方についても検討を加えている。

RC分科会

須賀 好富

RC分科会ではこの方面の新工法・新材料の委員会を開いている。また、今年の研究会では「コンクリートの工業化の現状について」を企画し、成功を収めた。今後も引き続いて委員会を開いていきたいと考えている。

たとえば溶接金網、耐久性鉄筋、エンクローズド溶接などが当面の対象になろう。なお関西支部の意見は東京本部のRC分科会にも反映されている。

地盤・基礎分科会

棚橋 秀光

本年度は新しい参加希望者をメンバーに迎えて20数名の構成で、偶数月に会合をもってきました。テーマは系統だってはいませんが、メンバーの話題提供により、その都度、関心のあるテーマをとりあげてきました。行政庁の基礎関係法的扱い上の問題、杭の引抜き抵抗に関する問題点、新潟地震に破壊した支持杭の掘り出し調査の報告、大口径場所打ち杭載荷試験の報告などです。あたらな参加者歓迎します。

耐震設計分科会

金澤 正明

惰眠状態を続けていた当分科会も、去る5月のシンポジウム『保有水平耐力を考える』の開催を契機に、漸く永い眠りから目覚め、新しいメンバーも迎え、二ヶ月に一回のペースで活動を再開し、先日やっとテーマを『構造設計上適切な剛性評価は?』として、本格的に活動を進めることになりました。当分科会は、決して“研究会”と言った堅苦しいものではなく、長続きする“気楽な集まり”であることを希望しています。

木構造分科会

木村 長仁

木造建築が大空間構造を中心に脚光を浴びて一般化してきていますが、接合ディテールの信頼性や材料の耐久性等で未

解明の部分も残されているため、本年3月より木構造分科会を設立して、実務家の立場から意欲的に取り組もうと活動を開始致しました。

今期の活動は、花博政府苑の木構造建築3館の概要および接合部実験結果の紹介のみに留まりました。木構造の接合部は設計者の腕の見せ所であることを実感させられ、今後とも設計例に基づいた勉強会を中心とした活動を行なう予定です。

構造計画分科会

八木 貞樹

当分科会は本年度に発足し、原則毎月第2火曜日6時から開催しています。今まで、花博施設の紹介、メガストラクチャの設計例、ニューヨーク視察報告、開閉ドーム視察報告等をテーマにディスカッションをしました。11月には本部構造計画部会との交流会を酒を交えて楽しく行ないました。当面は身近なテーマから最新技術情報まで、本音で語り会える会員の交流の場として活動したいと考えています。興味のある方は、八木または福本まで(06-946-4690)

●事務局よりのお知らせ

・'90建築関係団体合同忘年会

日時 平成2年12月14日

18:00~19:30

場所 太閤園ダイヤモンドホール

会費 8,000円

・'91年建築11団体合同新年交礼会

日時 平成3年1月4日

14:30~15:30

場所 大阪コクサイホテル 8F

会費 2,500円

申込 電話にて支部事務局迄

・支部事務局の電話番号変更

これまで事務局をお願いしている川崎建築構造研究所の電話を借用していましたが、支部専用の電話を設置しましたのでご利用下さい。番号は次の通りです。

06-227-0534

J S C A 関西支部事務局担当は成瀬嬢です。

・入門「SRC構造講習会」が東京で12/3に実施されますが、当支部でも平成3年2月頃に実施しますので、案内が届きましたら、奮ってご参加下さい。

見学記 「大和銀行本店新築工事」見学会に参加して 河本 純（長谷工コーポレーション）

見学会は7月28日、J S C Aと日本建築学会近畿支部の合同で行なわれ、ゼネコン、設計事務所、大学関係者を含め土曜日にもかかわらず約70名の参加者がおりました。当日は午前10時から現場事務所内で建築概要および施工概要について説明会があった後、4班に分れ現場内を案内していただきました。

見学させていただきました建物の構造上の特徴としては、メガストラクチャーを採用し無柱の大空間を構成しています。メガストラクチャーは建物4隅部の鋼管柱とH型鋼のブレースで構成され、建物全体がねじれないよう考慮されているとのことでした。さらに4階と13階は7mの階高があり、構造計画上、剛性を

確保するために約3mのせいをもつトラス梁で架構を構成してありました。このトラス梁は約22mあり現場内で地組したもの一度で吊り上げたとのことですですが精度よく施工する現場の御苦労は大変なものだと感心しました。

さて現在の建設業界の労務事情を考えますと、建築現場での作業の合理化は、私を含めこの業界の最大の感心事であろうと思われます。したがいまして現場見学会では施工の合理化について説明を受けますが、この現場でも数々の合理化工法が採用されていました。例をあげれば、逆打工法による上部・地下同時施

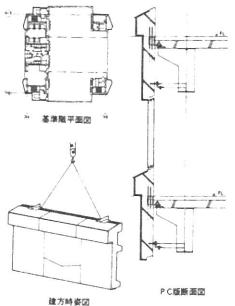
工、積層工法によるサイクル工程管理（1フロアー5日）、設備配管を先組みしたユニットフロアー、資材置場として各階に1部P C床版を採用等 実に数々の工夫がなされていることに感心しました。特にユニットフロアーの地組ヤードとして低層棟の床を使用していたり、各階の資材置場として一部の床にP C床版を用い重量の重い資材の仮置スペースに利用されておりし、狭い現場を最大限利用し工事を進められている様子を見学させていただきました。

私は鉄骨造の建物の設計はあまり経験がないため、今回の見学会はなるべく参加し構造ディテール、施工法について勉強させていただいています。特に大スパン架構については設計の苦労もありますが施工を考えた設計が特に重要であると考えさせられました。現在（'90 11月）22階の鉄骨造の事務所ビルを設計中ですので今回の見学会は規模は異りますが大いに参考になりました。

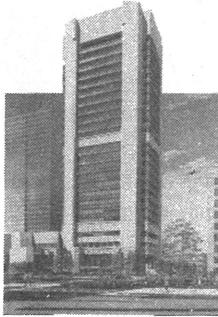
最後に、忙しい中私たち見学者に説明ならびに現場案内をしていただいた作業所所長様はじめ設計監理の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

（＊長谷工コーポレーション・大阪エンジニアリング事業部）

施工法解説図3(GPC)



大和銀行本店ビル新築工事



ゴルフ

第12回 J S C A会 成 績 表

	氏名	西	東	GROSS	H.	D	NET	RANK
1	山田 裕治	47	55	102	40	62	優勝	
2	竹ノ上 泰一	50	50	100	36	64	2位	
3	福田 国蔵	42	46	88	20	68	3位	
4	広浜 武雄	40	39	79	10	69	4位	
5	青木 仁	42	39	81	11	70	5位	
6	鈴木 計夫	48	45	93	22	71		
7	平井 駿	44	47	91	20	71	7位	
8	大西 勝	48	49	97	25	72		
9	馬場 篤	38	43	81	7	74		
10	★西川 康英	43	50	93	18	75		
11	大内山 正英	50	50	100	25	75	10位	
12	★水野 重雄	54	50	104	28	76		
13	長谷川 敏史	54	52	106	30	76		
14	真窪 達夫	44	44	88	11	77		
15	渡辺 博	45	54	99	22	77	15位	
16	須賀 肥富	43	49	92	14	78		
17	和田 勉	55	57	112	34	78		
18	山口 和成	43	50	93	13	80		
19	谷尾 俊弘	51	50	101	21	80		
20	平見 裕輔	53	50	103	23	80	20位	
21	★日下部 弘	50	56	106	25	81		
22	伊藤 孝	49	52	100	20	81		
23	西座 広昌	51	52	103	22	82		
24	徳永 建一郎	53	61	115	33	82		
25	中川 明	53	49	102	20	82	25位	
26	辰田 正雄	53	52	105	22	83		
27	高橋 向	49	58	107	24	83		
28	吉藤 幸雄	52	48	100	17	83		
29	松浦 哲	51	63	114	30	84		
30	佐野 博	56	51	107	23	84		
31	杉村 光輝	58	66	121	36	85		
32	松本 喜二	56	54	110	24	86		
33	勝丸 文彦	56	54	110	24	86		
34	駒沢 重信	54	58	112	26	86		
35	中島 久	50	56	106	20	86		
36	佐久間 周治	57	70	127	36	91		
37	岡本 雅夫	54	59	113	18	95		
38	★谷丸 正英	55	59	114	18	96		
39	三好 栄	68	65	133	36	97		
40	宮野 晴三	49	70	119	20	99	B.B.	
41	河岡 純	63	61	124	25	99		

ニアビン：広浜・渡辺・齊藤・広浜 ドラコン：青木・長谷川

ベストグロス：広浜 平均ストローク：103.7

次回ハンディー：山田28・竹ノ上29・青木10・福田17・広浜9

第13回 J S C A会 成 績 表

	氏名	西	東	GROSS	H.	D	NET	RANK
1	山賀 邦男	49	49	98	28	70	優勝	
2	犬飼 一夫	49	46	95	25	70	2位	
3	眞塚 達夫	39	42	81	11	70	3位	
4	青木 仁	42	39	81	10	71	4位	
5	藤田 忠正	48	48	96	24	72	5位	
6	谷尾 俊弘	46	47	73	21	72	6位	
7	佐久間 周治	56	52	108	36	72	7位	
8	大内山 正	52	45	97	25	72		
9	茂木 勝	46	43	89	16	73		
10	岡田 国威	45	45	90	17	73	10位	
11	日下部 弘	47	52	99	25	74		
12	山口 和成	44	44	88	13	75		
13	和田 勲	53	56	109	34	75		
14	平見 遼	48	50	98	23	75		
15	南戸 義昭	44	55	99	22	77	15位	
16	木村 哲治	48	57	105	28	77		
17	岡田 英昭	50	47	97	19	78		
18	三好 栄裕	52	62	114	36	78		
19	五十嵐 義継	58	52	110	30	80		
20	梅木 信正	42	45	87	7	80	20位	
21	徳永 伸一郎	63	50	113	33	80		
22	竹ノ上 泰一	56	53	109	29	80		
23	宮野 哲博	56	45	101	20	81		
24	渡辺 伸二	55	48	103	22	81		
25	保野 伸	50	55	105	23	82	25位	
26	中島 久	46	50	102	20	82		
27	★東郷 雄	51	47	98	15	83		
28	馬瀬 芳知	54	55	109	26	83		
29	河村 佳則	42	49	91	7	84		
30	庄氏 武雄	48	54	102	18	84		
31	広瀬 武雄	48	45	93	9	84	30位	
32	伊藤 孝	48	56	104	20	84		
33	★水鳥 紀美	59	55	114	30	84		
34	川村 索一	55	54	109	25	84		
35	松本 幸三	52	57	109	24	85		
36	岡本 重雄	48	54	102	16	86		
37	安田 光世	50	52	102	15	87		
38	松浦 浩英	57	62	119	30	89		
39	高橋 尚	54	60	114	24	90		
40	長田 正雄	56	58	118	22	92		
41	丸岡 義臣	65	63	128	36	92	B.B.	
42	中川 明	57	66	123	20	103		

ニアビン：馬瀬・大内山・青木・淡沼 ドラコン：広浜・佐久間

ベストグロス：馬瀬 平均ストローク：102.4

次回ハンディー：山田22・大鶴22・眞塚9

編集後記

今回は、J S C A関西支部主催によるニューヨーク最新建築事情視察を主テーマとしたが、頂いた原稿をみると、なかなか迫力があり、よいSTRUCTURE KANSAIになったと思う。

初めて、米国へ旅行された方の感想記など、限られた文面の中で、その感情をこめておられるのが、伝わってくる。

会員諸士、今年も多忙な日々を過されたと思う。共々に健康で、よい新年を迎えることを願う。

なお、今号は、テーマの関係で、原稿が多くなり、会員紹介や、囲碁の記事は、次号に掲載させて頂きます。原稿を送られた方には恐縮ですが、御了承の程お願いいたします。